

第2回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会  
総務部会 (会議録)

会議の名称	第2回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会総務部会
開催日時	令和5年8月31日(木) 午後7時から
開催場所	明智振興事務所 ききょう会議室
議題	・報告・協議 (1) 総務部会 副部長について (2) 課題整理シートについて (3) めざす恵那南地区統合中学校の姿について (4) 新中学校の名称の選定方法について(課題整理シート1) ・次回の総務部会について
公開非公開の別	公開
出席者	委員 原田 英明 安藤 一博 杉山 淳 小木曾 真由美 市岡 信宏 安藤 忠宏 水野 琴美 堀 雄二 小林 弘明 成瀬 久志 岡庭 寿則 鈴木 真弓 小笹 寿里 伊藤 桂子 小栗 崇 後藤 完太 成瀬 幸 榎本 大地 鈴木 直樹 伊藤 実千江 教育委員会 安藤 善和

	西尾 功
	加藤 陽子
	原 久晃
会議の内容	会議録のとおり
傍聴者の数	7名
記者の数	1名

## 1. 部会長あいさつ

部会長：部会は基本的に、なるべく多くの方に、できれば全員、発言の機会をもてるような形で運営していきたいと思っておりますので、ご協力ください。

## 2. 報告・協議

### (1) 【報告】総務部会 副部会長について

部会長：1回目で欠席の安藤一博先生に総務部会の副部会長の就任を依頼するという形で、指名させていただきました。その後、ご本人から、快諾をいただきましたので、改めて安藤一博副部会長をご紹介します。

副部会長あいさつ

副部会長：精一杯勤めさせていただきますので、よろしくお願ひします。

### (2) 【確認】課題整理シートについて

部会長：課題整理シートについて、何かご不明な点、ご意見がありましたら、ご発言ください。

それぞれの課題を協議する際に、改めて分からないとか、内容が違うんじゃないかということがあれば、その都度、おっしゃっていただければ結構かと思ひます。

### (3) 【報告】めざす恵那南地区統合中学校の姿について（別添資料）

部会長：めざす恵那南地区統合中学校の姿について理事会の報告説明

委員：「未来をつくる」って書いてあるんだけど、未来をどれくらい見越してこれは作っているんですか。

本当に1校にすることが、私たち恵南地区の未来を本当に作ると思ひますか。すごく疑問で明確にしてほしい。

「人とつながる」っていうのも、保護者が分断している中で、子どもたちにもどうやって人と繋がるかを教えるんですか。

「地域とあゆむ」ってことも。地域の自治区会長さんは地域の保護者の意見を聞いてもらえない状態なんですけど、この状態でどうやって地域とあゆむんで

すかつてのは全部お聞きしたいです。

部会長：それは私に対する質問ということですか。

委員：いや、それをどう思っているのかなっていう。理事会でそれを精査されるんですね。そういう場じゃないんですか。

部会長：理事会はいろんな意見が出て、とりあえずこれは教育委員会がもう1回持ち帰った形になっています。ただ、それを、ダメ出ししては再提出みたいな形でやるのは、果たして建設的かどうかっていうのは、私、個人的には疑問に思っています。もうちょっと中身を話し合っていく場があれば、その方がいいかと思います。

委員：まず、この中身のこともそうなんですけど、根本的に場所が、ほんとにそこでいいのかっていうところに疑問を持っている状態で、どうやって中身を決めていくのかなっていうのはすごい疑問なんですけど、もうそれは決定事項なんですか。もう絶対に山岡、もう決定。

部会長：統合準備委員会として、委嘱されて集まっているわけなので、統合する、しないを議論する場所ではないんです。

委員：じゃあ、もう全部イエスマンの集まりで進めていった方がいいですってことですかね。

副部会長：要は、ここがそれを協議する場ではなくて、中学校の準備、ここで言いますと、先ほど見ていただきました、課題シートがありますけども、課題シートに、表されている内容について、どういう風に進めていくかっていうのを相談する会ですので、その、統合の是非とか、場所の是非とか、そういったことをここで検討するレベルではないという風に考えています。

委員：疑問があっても、それは黙ってろっていうことですか。

副部会長：言っていただいてもいいんですけど、私どもも一緒の立場で来ています。ご一緒の立場ですので、そこをどうするかっていう風な検討をする立場にないです。私たちは答える立場にないです。

委員：ごめんなさい、ちょっと遅れてきて、もし冒頭で説明があったら申し訳ないんですけど、今日の目的ってなんですか。

部会長：今日の目的は、次の4の協議というところで、新中学校の名称の選定方法について、課題整理シートの1に書かれている内容を協議するのが本日の次第です。最初の1、2、3は、あくまでも報告として、先ほどまでお話ししたことです。協議としては、この4の協議、新中学校の名称をどうやって決めるかという話を協議したいということです。

委員：なるほど。はい、わかりました。その協議するにあたって必要な資料っていうのが、この1、2、3にごめんなさい、3とかが当たると。ご報告は、何のために。

部会長：報告は、まず、総務部部会の副部会長の安藤先生を改めて紹介させていただいたことと、それから、前回配布した課題整理シートについて、不明な点とかご意見

がございましたらお願いします。それと、3の報告は、8月3日の理事会で配布され、発表された。目指す恵那南地区統合中学校の姿という、いわゆるコンセプトというやつについて、色々ご意見があったということをご報告させていただきました。

委員：じゃあ、これについて、報告だけであってどうこう、ここで議論するものはないってということ。

部会長：そういうことです。

副部長：これについて、ですので、こんな風にはしてもらえないとか、もう少しこういうこと加えてはどうかとか、これはちょっと削った方がいいんじゃないかっていう、ご意見があればここで承って、理事会等あるいは事務局の方が、それを追加される形にはなるんですけど、報告なので一切意見聞きませんということではない。

委員：じゃあ、それが今の意見じゃないかな。

副部長：その中身が、場所がこうで、保護者が分担されていて、それをどうするのかっていうような風で、どうするのかっていうことはここでは検討できないかなど。

委員：持ってって理事会にあげるっていうのも必要な吸い上げですよ。

副部長：そういう意見があったって話は、吸い上げてもらえるとは思いますが。

部会長：ただ、統合の是非をここで議論するという場ではないので。

委員：じゃあ、どこで議論するんですか、これ。

どこで議論する。すればいい。

部会長：統合の是非。

副部長：私たちが選挙で、選んだ議員さんが。

委員：議員さんに聞いてもらえばいいんですか。

副部長：じゃないですかね。議員さんが決定を、議会として決定をされてと言いますか、市長さんに話をされて、市長さんの方も、行政の方でもうこれは、決定というか、決められたということで、じゃあ、その統合の時期までにこんだけのことをやんなきゃいけませんよねっていうことで、こちらはどうしていきましょうかっていうのを相談する部会だと私はふんできますけど。

委員：じゃあ、皆さんの認識が違うってことですね。まだ決定ではないってところも聞いているんですけども、決定はしてないっていう、これから、そう、色々詰めていくよ、詰めていくことによって決定するのであって、

部会長：いや、統合する前提で、そのための準備をどうするのかっていう委員会をやっているわけです。

副部長：協議を行っていた結果、統合はしないというような状態ではないと思います。

委員：じゃあ、その議論は、保護者はどこでされたんですかね、私たちに。

副部長：5年前までのところでもかなり検討、結構な時間かけて検討されてきております。

委員：検討されたかもしれないですけど、私たちは全く聞いてないんですけど。

部会長：それは、私も実は8年前にUターンしてきたのでね。その、聞いてないよって言えば、私も聞いてないわけですけども。ただ、それまでの先人たちが、5か町村の代表の人たちが集まって色々検討した結果、1校で行きましょうという話になったということを知っています。ですから、それを、僕のいないところで決めたからそれはちょっと受けられませんよというような立場では、僕はものはいえない。

委員：私たち自身も、私たち世代が自分たち子どもを抱えていて、現時点で私たちにふりかかってくることなんですね。先人の方たちが決めたかもしれないけど、今現状、私たちの問題なんですよ。そこを議論する場がないとか、準備委員会なのになぜそれが言えないのかって言うと、私は不思議でならないんですけど。

副部長：統合の準備をする委員会ですので。

委員：じゃあ統合、他の統合方法もあるんじゃないのって私も思うし。

副部長：方法については、こちら、中身としては、校名とか、校歌とかを。総務部会ですので。

委員：コンセプトが決まってない状態で中身のことで決めるんですか。

副部長：コンセプトというのは。

委員：さっき言ったこのコンセプト。

部会長：コンセプトは、別にこれ自体が何かすごい間違ったことが書かれているわけではないので。

委員：さっき私が言った、今分断が起きてます、未来を作ること。

副部長：分断というのは。

委員：本当にこれ統合いいんですかっていう親たちも結構いて、やっぱ、この町の有権者の過半数の方たちが署名とかもしてるんですね。この状態で準備委員会を着々と進んでいることがおかしいと思わないんですかっていうのは、私はみんなに聞きたいんですけど。

おかしいと思わずに進めている方がおかしいと思うんですけど。

今メディアにも取り上げられて、日本中からこのビラ見られて、この状態で誰も何も言わずに、はい、準備委員会進めましょうって言うことがおかしいと思うんですけど。

副部長：子供の減少はまったなしですので。

今、私、中学校の校長でありますけど、今、本当に部活動もこれから地域移行等が進んでいきますからあれですけども、部活動等も、自分自身が、やりたいものがないとかで我慢しなきゃいけない。地域移行が進んでいくと、スポーツにも参加しないようなものも出てくるかもしれません。で、特に恵南の中学校で言いますと、文化系の部活がないので、それをなんとかって言うお話ありましたが、今

の状況では実際できない。どんどん縮小していくばかりです。

今、明智中学校も割と人数は多い方なんですけども、例えば、上矢作中学校にしてみますと、例えば、体育科でバレーボールの授業が、6人制のバレーボールの授業ができない、チームは作れない、バスケは、バスケもできない、というような形で、学年が複数一緒になって、2年生と3年生が一緒にやるだとか、そういう問題がたくさん出てきています。

統合して、大勢の生徒が集まることで、そういったことが解消できるということなど、色々な要素について検討がこれまでなされてきて、1校統合が望ましいということの答申が、5年前、6年前ですかね、ちょっと記憶にありませんけども、出されて、今まで進んできている状態だと思います。ご意見色々あると思いますが、そのような流れで進んできているところです。

委員 : いいですよ、僕たち、多分そんなに勉強してきてないわけじゃないんですよ。ちゃんと色々調べて、色々な知識を今回の件で吸収、多分皆さんされていると思うんですけど、検討されてきたって言われているんですけど、検討された根拠、エビデンスが全くまだ開示されていないんです。どういうこと。されてきた。そういうところが多分みんな不安に思っているじゃないかなっていうのがあります。この総務部会って、本来この、8項にあるんですけど、配信しますよってちゃんと書いてるんですよ。その配信ができてないっていうところはまず直していかないといけないんじゃないかなっていうのは、すごく、個人的な意見で申し訳ないんですけど、感じています。理事会の議事録とか、正確な記事とか色々書いてますけど、これが今ちゃんとなされているのかなっていうのが、すごく疑問に思っている。2項の課題整理シートについての不明な点、ご意見、とこにちょっとなってるかと思うんですけども、今回、1ヶ月ぐらい止まりましたよね、理事会というか、この準備委員会自体が。その、今止まってますよっていう報告ってされてますか、保護者に対して。多分自分が知っている限りでは知らないんです。出てないと思います。ただ、よくよくホームページとか調べると、市のホームページには、報道各社に公文が出てたりしてるんです。保護者に対しては全くないんで、いざまた準備委員会始まりましたってなったら、いきなり始まった理事会の内容がポンと出てきただけ。こんな状況じゃ、ちょっとさすがにみんな怒るんじゃないかなっていう気がするんですけど、皆さんどうですかね、職員さんも保護者の方と接してる方が多いと思うんですけども、そういうのすごく感じるんじゃないか。なので、この総務部会としては、ちゃんとそういうところを徹底的にやっていかないといけないのかなっていうところがひとつあります。情報発信についても、今までどういう検討がされてきたのかっていうのをちゃんと配信しないとダメなんじゃないかなっていう風に思ってるんですけども、今この状態は、本当はかなりやばい状態というか、本当にちょっとしつかり

考えないと、このまま進んでいっても何もいいものを生まないなっていう気はすごくしてならないんですけれども、どうですかね。個人的な意見で、この回の場の発言してる内容に即しなかったら、そこは、しっかりと否定していただいてもらっても、多分全然問題ないと思いますけど。

副部会長：いいものになるように、いい学校ができるように、話し合いをしていくのがこの部会だと思っています。

広報に関してはこの会が担っている形になります。

部会長：10ページですね。

副部会長：そうですね、前回、出されています。中身で言いますと、広報に関することについては、こちらで、意見を出していただきながら、事務局で、調査、検討して、実施していくというようなことになっています。

事務局：事務局の方から話をさせていただきます。課題整理シート8番にある通り、理事会ですとか、部会の方で話し合われていくことの議事録については、公開をさせていただきます。今後、この総務部会で言いますと、校名ですとか制服のこと、色々な検討事項につきまして、保護者の方の関心も大変高いので、そうした内容について、話し合われたこと、決まったことについて、随時、お知らせをさせていただきますというものでございます。

委員：準備委員会でどんどん進んでいくんですけど、本当に保護者が、過半数の保護者がやっぱりおかしいから反対って、言ったら、民主主義だったら変わらないんですかね。それでも変わらないんですかね。民主主義ってそういうことじゃないんですかね。

事務局：先ほど、お話にも上がってきておりますが、教育委員会としましては、これまでの長年にわたる、地域の保護者の代表の方や地域の代表の方による協議をもって、この統合の話が、ここまで、進んで来ておりますので、今回のこの準備委員会については、新しい中学校の開校に向けて必要な課題を、この場で、ご協議いただくと、いうことで、皆様にも、委員に就任していただきまして、こちらで協議いただくということになっておりますので、まず、前提として、その新しい中学校の開校に向けての課題について、保護者の代表の方の必要な意見等を、今後、集めながら、それを基にして、新しい中学校の色々な形をここで協議いただくということで、皆様にお集まりいただいているものですので、その点をご承知いただいて、会の方を進めていただけると、よろしいかと思えます。

委員：このような気持ちになれないので、こうなっちゃってるんですけど。

部会長：他の方々は、どんなふうですか。今、中学校の統合の是非をここで議論しようと思って集まっていたわけじゃないんですけども、そこから議論、この場でやるべきだというふうに思われる方は、他にもあるんですか。

委員：結構、その、反対意見が多い。その反対意見、ある程度の吸い上げてというか、

民意を反映していただかないとっていうところはあると思うんですよ。実際、中日新聞でも、1面に報道された内容は、結局、市長さんがそういう事実はなかったよってというコメントを多分何日後かに出されたと思うんですけど、実際、どうやってその事実認定をしたのかなっていう、その調査内容とか、そういうものが一切なく、ただ市長のコメントで、そういうことは一切なかったですよってというだけのコメントで、もうこれは流れちゃったって感じなんですけど、実際、僕はすごくそれが腑に落ちてなくて、本当になかったの。中日新聞は虚偽の報道をしたのって思っちゃうんですね。やっぱ中日新聞も、そんな虚偽の内容をね、報道を出すような会社じゃないと思う。それなりの調査を進めて、色々その関わった方々の話を聞いた上で多分こう報道されると思うんですね。それをただ市長が、そういうことはなかったですだけのコメントで本当に終わらせていいのかっていうところが自分の中ではあって、ちゃんと説明をしてほしいなって。こういう調査内容で、こういう方法で、こういう調査を進めた上で、報道でされた内容ではなかったっていうのをちゃんと、せめてこの場でもいいんで、やっぱり不安じゃないですか。強引に進めてるようにはしか思えないので、正直。まずはそういったところを恵那市として、誠心誠意を持って説明していただかないと、僕の中ではそれが腑に落ちないというか、準備を進められないなっていう気持ちで、今ここにいます。

部会長：今、3人お話いただきましたよね。他の方々はどうなんでしょうか。

委員：ちょっといいです。

上矢作でも反対してる人もおれば、賛成している人もおる。その明確なその人数、基準っていうのはよく明確にはわかりませんが、そういった反対の気持ちを持った人たちがあって、そういう意見を持つていうのは、この会議とか出るんじゃないかと、教育委員会はしっかりそれを把握してもらって、今出た不安なことを解消できる資料をどんどん出していただければいいと。

先ほど言ったように、中学校の検討は昔からやっとして、その頃、僕はその会議あった時には保育園で1番上なんで、極端に言って、保育園だとあんまり関係ないなと思って。

あんまり興味なくて、実際は、自分がこの立場になってきたら、すごく、気になるようになって。ただ、1個腑に落ちなかったのが、令和4年に教育委員会の教育環境検討委員会の設置っていうのが、どうして保護者にこれが設置されますよってという話がなかったのか。全く知らなかった。

その辺がちょっと保護者の中で腑に落ちてない点がある。

こっちに話をしてもしょうがないので、教育委員会の方でそういう意見があるとしてしっかり認識していただいて、多分、他の部会でも同じような意見が出てくると。それを明確に納得いくように情報を発信していただきたい。



ただ、今日の会議はこの議題にあることをとりあえず進めるものだと僕は思う。これは、今、会長さんとかに話をしても、ここでじゃあ結論出しますって出るものじゃない。じゃあ、今日、みんなが、全員がね、同じ意見で統合の是非を考えましょうっていう話になれば別だけでも、今日の会議はこの議題に対してやりますよって来ているもので、学校の校名、これは場所が違っていても、この校名になる可能性もあるし、その場所を考えるは別の話。統合やめます、やめませんは別の話。これは進めていかなければ間に合わなくなってくるところで、統合がダメになったら、仕事終わってから7時から行って、が無駄に終わったっていうことになるので、そういうことにはならんようにしっかりやっていただきたい。

部会長：他の方、いかがですか。

新聞報道とか色々あるので、その都度いろんな人がいろんな意見や感想を持たれるのは、当然だなとは思いますが。ただ、重大な違法行為が行われたとか、そういうことではないので、それを煽って都会の人が面白がるのは、確かに新聞が売れるかもしれないから、そうやって。そういうあれもありますよね。

委員：そう言う言い方はおかしい。

部会長：全国ネットのテレビ局なんかが、名古屋市と同じぐらいの面積の恵那南地区でこんな風だ、あんな風だ、そんな山の中で大変だねって見てる感じかなという風には見えてしまうんですね。だから、それは人それぞれで受け取り方違うと思いますよ。テレビ局でよくやってくれた、私たちが反対してることに力を貸してくれてるっていう風に言ってる人もいるかもしれませんが、それに、一喜一憂しても始まらないことで、とりあえず、教育委員会が私たちが委員として委嘱してきたわけなので、その委嘱された内容について、対応していこうかなというのが私の立場ですけども。

委員：ごめんなさい、根本的なことなんですけど、今この状態で議論する内容ってあるのかなって思ったんですけど、そこは大丈夫ですか。できる内容ってあります。公募しますよ。今日の4の新中学校の名称選定方法どうしますかっていうこの話、強いて検討できる内容って、どういう方法を取りますか、ぐらいしかないような気がする。いつからとかっていうのもあると思うんですけど、これってコンセプトが無いのに校名や名称どうやって決めるのっていう風になるし、まだ多くの方が新しい中学校に対してイメージ全然わけてないんじゃないかと気がするけど、その中でどうやって。ここに書いてあるんですけど、部会で原案を作成とか、条件付き公募とかってあるんですけど、僕だったら進めれないなって気はするんですけど。

今の状況じゃ、ちょっと、と思うんですけど、柱がない。そこに向かっていけるのかなっていう気がするんですけど、どうですか。

部会長：柱って。

委員：柱っていうのは、ビジョンみたいな、コンセプト。

副部長：ここにありますが。姿で、柱っていう形で示させていただいているものなんですけど。これについては、恵那市の南部の5つの旧町村の5校が統合するという、この土地特有の地理的な情勢とか、文化とか、色々ある中で、こういったことを大事にしていけるといいよねっていう内容だと思います。

学校は、文部科学省と言いますか、法で定められた機関ですので、地域とか、場所柄が変わると、大きく異なるかっていうと、それほど大きくは変わらないです。ただ、学校の特色としてこの部分を大事にしたい、例えば、今、人口が非常に少なくなっている、この恵那南の地区の未来を作り上げていくような、そういった、ぜひ子供たちに。そして、地域と歩むというのもそこに繋がるかもしれません。そして、広い地域ですけども、例えば、今、私、明智にいますが、明智でいろんなボランティア活動を中学生がやっていますけども、その活動が今はどちらかという明智内だけにとどまっているんですが、例えば、このボランティアとかやるものが上矢作で行われる行事に明智の住まいの生徒が参加するだとか、あるいは明智で行われる行事に対してのボランティア活動に山岡から、あるいは串原、岩村から中学生が参加をして、地域を盛り上げていくといえますか、地域と繋がっていく、そういったようなことで広がっていくんじゃないかっていうようなことが私はなんとなく希望を持っているんです。

そうすると、今、私らの世代で言うと、ちょっとこれ困ったな、どうしよう、誰に相談しようかって思うと、自分が住む地域、あるいはそこからちょっと広がったぐらいのところしかなかかなか行けないんですけども、それがこの統合した中学校を経験した子供たちがやがて大人になった時には広がっていくんじゃないかなっていうことを強く思いますし、そういう風に期待していますし、そういう風にしていけたらいいなってことも、私は思っていますので、そういった思いを同じように持って、このようなものが作られていると思うんですが、ここはもうちょっとこうしてほしい、こういうことはもう少し軽減をして、こちらの方にこそ力を入れてほしいっていうものが、出てくるかと思うんですけども、その部分を補充していきながらも、その傍らでは、統合中学校で、例えば、学校名。まだ決まってない、柱が決まったけども学校名は決まってません。仮というので、ずっと行くのかというようなところですね。その辺が、私は、すごく焦りを感じてるんですけども。ここ何月かこの総務部会も途絶えている状態でしたので、本来ですと、もう少し段取りを組んで進んでいくようなところが、進めなかったのも、これは後々スケジュールが詰まって、本当はもうちょっとじっくり考えたかったんだけど、開校に間に合わないの、急いでこういう風に決めます、あるいは、それが間に合わないの、開校はするけども、とりあえず今の旧の各学校で過ごしてくださいみたいな、そんなことに繋がっていつてしまうとまずいだろう

うなというなことを思っていますので。

委員：何がまずいんですか。

委員：しっかり納得するまでじっくり話し合った方がいいです。そんな慌てる必要は全くない。

副部長：はい。ないと思います。ですので、そういうことにならないように、ここでそれを協議していくっていうことをここで付託されていますので、それを皆さんで、話し合いを進めていただくことが大事ではないかなと私は思っています。

委員：今の校長先生のお話だと、もう期限が決まってるからそこまでやらなきゃいけないんですよっていうことにしか聞こえないんですけど、それはなぜその期限を守らなきゃいけないんですか。みんなが不安を持ってる状態で、普通はセッションして、保護者と教育委員会と市長とお話とかをして、そこからコンセプトを決めたりとか、学校の方向性って決めていくんじゃないんですか。

副部長：この方向性はそういう形で決めていってもいいと思うんですけど。

校名だとかその辺りもいろんな思いがあると思いますので、時間はかかるかと思えます。

委員：時間はかかるのであれば、その期限がどうしても絶対じゃないんじゃないですか。現時点で止まってたんですよ、止まってた部分は、止まってたからもっと後出しになっていくわけじゃないですか、どんどん。

副部長：そういう形ではまずいかなと私は思っています。

委員：何がまずいんですか。

副部長：子供たちがこれから統合に向けて、今、中学生なんかで言いますと、今在籍している子供たちは統合には関わらない子供たちなんですけども、統合に向けて、やっぱり一緒になった時に大事にすることは、例えば挨拶ってすごく大事だねって、そういうのを受け継いでいかなきゃいけないよねっていうような子供たちの中には言葉も出てきます。統合に賛成なのか反対なのかどうか、私ども聞くわけではないんですけども、今、僕たちはそういう風にならないんだけども、統合すると、部活動なんかもうちょっと別のことができたかもしれないっていうようなことを思ったりして、羨ましいなっていうようなことを言う生徒もいます。

委員：部活動はもうできないですよって言ったじゃないですか。

副部長：そういう風になっていきますけど。部活動だけじゃないんですよ。例えば実際の授業なんかで言うと、明智中学校でも単学級になって少なくなっていますので、非常に子供たちの交流というところが限られてきます。

それは私の意見でありまして、ここで皆さんに検討いただくようなことで、私は言ってます。そういうようなことがありまして、ここの部会については、その内容をどうするのかっていうことで協議をしてることをやっていかなきゃいけない。ただ、今、皆さんおっしゃるように、どうしてもじっくり時間をかけてコ

ンセプトができない限りは進められないというようなことであれば、そうなるしか仕方がないのかなと思うんですけども。

委員：例えば今のこの、じゃあ校歌を決めましようとか名前を決めましようっていうのでも、今の5つの町の生徒の交わりを得て、その中で例えばそういう名前の出し合いだったりとかっていうのをすればいいんじゃないですか。

部会長：そうゆう考え方もあるね。

副部長：その方法を考えましようっていうことなんです。

委員：まずは、結局、その関わりがない状態でどうするこうするって言うてもどうにもならないので、例えば小学校の交流を図るとか、そういうことをしながら決めていけばいいんじゃないですか。

副部長：それも、私たちがこういう風にやってみましようって段取りの中でご意見をいただければ、それが実際に可能かどうかと考えていけると思うんですけど。そういうことを出させていただく会ですので。

部会長：そういう形にできるといいと思います。

副部長：知らない同士でいきなり中学校に行って。なんていう風には、それはうまくいかないだろう。だから、小学校のうちに交流を図って、方向性をどのように持ってっていうようなことをやった方がいいというご意見を出していただければ、そういう形で反映はされると思うんですけど。

委員：これって期限が決まっちゃってるから、なんかみんな、なんですよね。結局そこまでやらないといけないから、そんな頭になって。そんなことないですか。

部会長：物事は、ある程度ゴールというのを設定してやった方がいいとは思う。

委員：ゴールを設定するにあたったプロセスがあつてのゴールの設定なら全然あつた。今の状況だとなんかゴールありきで、そこに色々パーツを当てはめていこうとしているような。本来スケジュールを組むのにあたっては、どういう課題があるから、いついつまでにこれを解決してしましようとかっていうマネジメントがあつてのスケジュールリングっていうのが通常かなって思うんですけど、これがなんかない。で、これの件に関してのスケジュールが書いてありますけど、ホールドポイントがどこなのかっていうのも全然わかんない。

絶対ありますよね。何か物事決める時って、ここ、いつまでにはこのことを確定しないといけないとか、決めないと間に合わないとか、そういうような、これを決めるから、じゃあこれを決めたことによって次のステップに行きましようとかっていうような、普通はこういうのがプロジェクトのPDCAですか。

この計画見ててもちょっとよくわからないな。なんでここもちょっとしっかりした方がいい。

副部長：そのスケジュール的なところも、ここの中でこういう段取りを組んでいった方がいいだろうっていう話をしていくものだと思いますけど。

委員：じゃあ、当てはまらなかったらどうするのってところも検討していかないといけないってところで、この会としては、例えばですけど、スケジュールにはまらないので、ここの期間までには結論出すことは多分無理でしょうとかっていう風になっているのか。

部会長：スケジュールは多分組み直しにはなると思います。

委員：これはもうないものって思った方が。

部会長：いや、ないというか。一応、目安です。

副部会長：目安ですので、こういうものを頼りにしないとこういう会議が成り立たないので残っていると思います。

部会長：この6、7、8月って書いてあるところが抜けてるわけだから、このスケジュール表でね。だから、その分は押してきちゃうのか、後ろ倒しにするのかっていうのは、どっかで判断していかなきゃいけないとは思いますが。

委員：いいですか。

今日は私も初めて参加して、今皆さんのお話を聞いています。皆さんそれぞれ、恵那市民の皆さん、恵南の元地区の皆さん、今、長島、大井の人たちも、どうなっとるんだみたいな、興味本位でいろんなご意見をいただくんですけど、中には、早くしろっていう意見の方もいらっしゃる。上矢作でも完璧に納得してるかっていうと、うーんっていう感じがする。でも、やっぱり、早くしてくれって意見の方、多分こう、黙っているか、もしくはここに来てないか、あとはもう無関心か、だと思っんですよ。なんで、仮に、もしこの議論が、止まったとしたり、原点に戻ったとしても、一方で、早くしてくれっていうのは、トップギアに合わせる、トップチームに合わせて議論していくのもひとつある。これもひとつ必要だ。必要だと思うと後戻りができないとするとするならば、早くする。早くしてくれって人もいるので、そこに合わせてこの場はあるのかなって僕は思っています。でも、納得し、完璧に納得してるかどうかっていうと、私の心の中はうーんって思いなんです。それを言っても始まらないので、個人的にはもうこの場は、この課題整理シートにのっかって、それぞれいろんなお仕事だったりするので、この辺は議論難しいかと思うんですが、まずはこのシートに則ってやった方がいいんじゃないかなとは、ちょっと個人的には思います。

いろんなご意見、納得するしないは、やっぱり委員さんがおっしゃったように、教育委員会さんの方から、またご説明とか、今ビデオとっていらっしゃるんですが、また見たご意見がまた出てくれば、教育委員会と理事会さんの方でご検討いただくっていうのが一番スムーズじゃないかな。皆さんのお時間があるので、私も一緒に分けて考えた方がいいのかなって思いました。以上です。

部会長：いろいろなご意見があるとは思いますが、その中で、前向きに検討した方がいい内容もおっしゃっていただきました。

先ほど委員さんがおっしゃっていただきましたよね。そういうことは出していただくのはもちろん構わないんですが、課題整理シートに則って、ひとつひとつクリアしていくってということで、この部会は招集されていますので、その内容で進めていきたいと思います。

いかがですか。本日の目標としては、名称の選定方法について協議していただく、ということでしょうか。

案が1、2、3と3つ、これは事務局の方から書かれてきていますが、この3つの中のどれかにするのか、全然違うやり方っていう、提案があるのかはわかりませんが、ご協議いただけますでしょうか。

恵那南地区の中学校ということですので、自然な着地点というのはあるかと思いますが、それに向かってどういう形で、公募するでやっていくのかということですね。後ろの方の資料、その選定方法について協議するということでしょうか。

副部長：協議を、ここの本日予定されていた内容に、今から入っていったいいんでしょうか。それとも、いや、まだまだっていう、そういう感じでしょうか。

部長：よろしいですか。じゃあ、協議に入りますよ。

委員：協議していただいていたんですけど、部会がこれだけ止まってたっていう、説明はされてましたか。ちょっと遅れてきたんで。

部長：その説明は別にないです。新聞報道を受けて、市が調査するとか言って、その結果待ちだったんじゃないかと思いますが。それで、その結果を受けて理事会が先日、8月3日に理事会が開催されました。順次、部会も開催していきましようという話になって、今日のスケジュールが決まったと思います。

よろしいですか。それでは、

委員：不信感の塊の中でどうやって協議するんですか。

部長：不信感の塊っていうのは。

副部長：新聞報道で取り上げられたことを、その

委員：不信感っていうか、多分もうみんなが同じ方向に向いてないですよ。ベクトルはみんなバラバラじゃないかなって。

委員：この状況で本当に決めれますか。私は全然、ごめんなさい、決めれないので。

委員：みんながひとつの方向に気持ちが向いてないです。そう思いません。

部長：それは、いろんな意見があるのはしょうがないでしょう。ひとつの見方になるっていうのはそもそもおかしい。

委員：いやいや、じゃなくて、気持ちが向いてない。この課題に取り組もうっていうところに向いてないんじゃないかなっていうこと。

意見とかあるのは、重々、一人一人意見あるのがわかる。

副部長：どうすると気持ちが向きますかね。

委員：それをやっぱりちゃんと今回答があったみたいに、誠意あるところの説明が必要なんじゃないですかっていうところになっちゃうと思う。

副部長：どの辺について。

委員：全て、色々上がった内容について、新聞報道もそうですけど、今まで止まってきた、内容について、全く保護者に何も説明がないっていうような状況、そういうところが問題じゃないですかっていう風になると、やっぱそれは、ここにいるメンバーだけじゃなくて、他の保護者も同じような人たちが、いるっていうところを捉えないといけないのかな。1人が思えば、その下に同じような考えの人たちいるんじゃないかなっていう風な、捉え方をしてあげないと。ただ、さっきも言いましたように、進めないといけないってことであれば、この状況でも一応進めないといけないのであれば、やってもらってもいいかなと、やるしかないみたいな。

部長：やるしかないという風に僕が申し上げるわけじゃないんですけども。

委員：そういう部会で今回集まってるっていうことであると。課題シートについて、検討すると。

部長：準備委員会の総務部会として召集されていますので。

委員：っていう、名目というか、

部長：そうです。ですから、その中で、いろんな意見の人がいるのは、わかりましたけど。それで、この協議は、みんなの気持ちと一緒にやるまでお預けにする、じゃあ、そのみんなの気持ちと一緒にやるのはどうやって測るのかとか、いろんな問題が出ますよね。

名前も所属もみんな出てますのでね。誰が何言った、どうのこうのっていうことをまたいろんな形で、挙げられて、叩かれたり中傷されても嫌なので発言しないっていう方だっただけ出てくると思うんですよ。ですから、そういうことのないように、いろんなご意見があった上で、今日の会議の趣旨に従って、進めさせていただきたい。準備委員会としてその統合に向けた準備をする委員会なので、そもそも統合に反対の人がその準備をする委員会にいるってこと自体が矛盾なので。

委員：矛盾ですよ。そうですね。じゃあ、やめた方がいいじゃないですか。

部長：やめた方がいいかもしれませんね。

委員：そういうことですよ。わかりました。矛盾を感じる人はやめてくださいってことでよかったですか。認識は。

部長：いや、やめてくださいとは申し上げませんが。

委員：そう言いましたよね。

部長：ただ、矛盾であることは間違いない。

委員：私も矛盾の中で出てきたんですよ。誰も言える人が、意見言える人がいないから、誰も意見を言える人がいない中、意見言える人が出た方がいいって言われて選

抜かれて出てきたんですよ。

それでも矛盾を感じる人はやめた方がいいってことですよ。

部会長：やめた方がいいかどうかは、

委員：言いましたよ。

部会長：矛盾があると申し上げただけで、やめろとか、やめた方がいいとか、申し上げてません。

副部会長：矛盾というのは、この会の話し合うべき内容という趣旨がありますが、その中で、その、統合の是非とか、新聞報道等のことに関して、納得のいく説明をって言うようなところは、趣旨からは、ちょっと外れている状態ですので、ここに、時間を割いてお集まりいただいた方が、今日、それぞれ思いをお持ちだと思えますけども、どんなことを話していくんだらう、これから、何回もある中で、どういふことを話して、どういふ風にしていくのかってことを、皆さんの意見を聞かしながら考えて、自分の出身母体の方に持ち帰っていただいて説明をしていただいたりとか、そういうことも、あるべきかという風に思うんですけども、その話し合いが一向に進んでいかないような状況に今ありますので、こちらの部会が付託された内容を、委嘱を受けて私たちが進めていくっていうことをやるべきだという部会長さんは思いを持ってお見えだと思いますので、その辺りを念頭に置いて、こちらの会議は臨まなきゃいけないかなっていうことを思うんですけど。ただ、その、話し合う気にならないっていう風であれば、どうすれば、話し合う気になっていただけるのかなという風に思うんですけども、それを、皆さんのお気持ちが揃うまで待っているというわけにもいかないと思うところが、正直なところで、子供たちが暮らすことになるであろう新しい学校、この総務部会としては、課題シートの8つ、こちらの方を、主に考えて準備を進めるという役割を担っていると思いますので、将来のテーマが、今の子供たちの、未来を受けて私たちができる限りのことをするっていうことが大事ではないかなって思うんですけども。

部会長：じゃあ、協議を進められないって人がいる限りは進められないわけですよ。

副部会長：事務局さん、先ほどの報道関係のことに関して、市の説明に、詳しい説明をしていただけるとか、そんな状況ではありますか。

事務局：私たち、教育委員会の方で、お伝えできるのは、市の方で、調査がなされて、そういった結果が出たと、報道にある通りのところまでしか、こちらとしても、持っている情報としては、どのような調査がなされたですとか、そういったところについては、詳細は、承知をしております。

ただ、その結果、そういったことはなかったということについては、こちらとしても、承知をし、出しておったところです。前回の理事会のところでも、そこまでのところで教育委員会の方から、理事会の皆様にお話をさせていただいた次



第です。

副部会長：報道に関しては、私が想像するにですけども、新聞社の方については、ニュースソースを明らかにすることはありませんので、誰が言ったのかっていうことは、多分って言いますか、言わないですよ。それが誰かという、そのことを探すというよりは、市役所内で行われたのは、実際にそういったことがなされたのかということですよ。そのことに関しては、そういったことをした職員はいないという状況だったということです。考えてみますと、この新聞で話題になった内容は、説明会の折りにそういう発言をしてくれっていう、依頼を受けたというような内容だったと思うんですけども、その説明会で、そういう依頼、こういう発言をしてくれという依頼があって、それで話したということが問題になるだろうなと思って、市の職員は頭働かせると思いますので、多分、そういうことは、しないんじゃないかなと私は思いますけど、それは個人の考えですので、なんとも言えませんが、そのような形で想像する話でしかできないんですけども、実際、誰が言ったのかってことを明らかにすることはできないですし、それが誰かってことを市役所が調べたわけではないと思いますので、どういう調査をして、誰にどんなことを聞いて、そしたら、誰がどんなってっていうことは、おそらく言えないと思うんです。

委員：議事録で、人を絞って突き止めたって書いてました。

副部会長：新聞にはですね。

委員：新聞に書いたってことは事実だと思います。

どうやって調べたかちゅうのを教えてもらえて、市の方から保護者宛てに、何か発表してもらえれば。

事務局：恵那市の方から、報道発表資料として、マスコミ各社の方に出させていただいた文章がございます。ちょっと読み上げます。

(新聞報道について、報道発表資料を読み上げ説明。)

副部会長：報道の方には、出されているけど。保護者の方に説明がないので、なんらかの方法で、それをお知らせいただけないかというお話だったと思うんですけど。

事務局：確かに、保護者向けには、このことにつきまして、お伝えするような、通信はこちらとしては、作成はしておりませんでした。

委員：これは違うんですか。第4号

これは保護者に配信されていますよね。

部会長：理事会の報告ですね。

副部会長：ここにも書いていただいていますので。

事務局：保護者に向けてより詳細な説明が必要ということでございましょうか。

委員：理事会の要旨として出ています、この報告資料。

理事会でそういう報告しましたっていう内容です。

その発表があつて、準備委員会が止まったのだった。

そうだから、全然遅いんですよ。発信だっていう。そこを僕が言った課題シート8のところで言っている。そういうところは、見直していかなきゃいけないかなっていうことを言わせていただいただけです。出てるのは全部チェックしてる。

理事会の議事録自体、要旨も出たのは昨日、一昨日ぐらいですので、便りは先に出るんですけど、理事会の議事録が出るには、1ヶ月弱ぐらいかかってやっとホームページにだされるような状況だと、やっぱりよくないよね。

議事録なんて普通は1週間ぐらいが普通ですよ、通常。

副部会長：普通はわかんないですけど、早めろということで、その辺りは早急にできるようにしてほしい。

委員：早めていかないと良くないんじゃないかなっていう。あと、議事録の内容と、便りの内容にそごがあるっていうこと自体がおかしいので。

便りに理事会の内容のところ、今回出たコンセプトはすごい、素晴らしいみたいな一文が書いてあったと思うんですけど。

2ページ目、理事会からのコメントのところですね。一番下の行のところ。その内容で、議事録ずっと全部見たんですけど、発言された方多分いないような気がしたんです。こういうことが平気でできちゃうんだなって、ちょっと自分ももうすごいびっくりしましたっていう状況です。

部会長：主なご意見の一番最後ってこと。

委員：はい。このコンセプトの修正案を見て、わくわくでしたっけ。だっていうのが。

部会長：中学校の全体像、子供さんたちがどのように授業を受けていくのか想像できるコンセプトだなと感じた。と書いてありますね。

委員：その内容って。議事録ずっと全部、28ページかぐらいある、長文を読んでたんですけど、そういった発言があつたのが見受けられなかった。

副部会長：なかったってことですか。

委員：ちょっと自分も28ページあり、目が疲れて、もしかしたら見落としてるかもしれないんですけども。

部会長：なかったかもしれないね。僕も聞き覚えはない。

ただ、否定する発言ばっかしだったとは思わないけど。

委員：それは言ってないです。そういう内容があつたかっていうことだけ。

本来なら議事録にその内容が出てくるはずなんですけど、28ページにわたるあの長文にもない。

部会長：その辺をもうちょっとちゃんとやってくれということですね。

委員：はい、そうです。そういうことを挙げていただきたい。修正するなら修正もしっかりとして。

副部長：出されたものが。

委員：はい。間違ってるなら間違ってるということをしっかりと。

部長：それは課題整理シートの8項目、第8の項目に関することですね。

それですね、問題は、ちょっと時間がかなり立ってしまっていますが、課題整理シート1の中学校の名称の選定方法についての協議は、今日はどういう形にしましょうか。

1校統合に反対だという気持ちのままの方がいる限り協議が進められないってことになるのでしょうかね。

副部長：思いは、皆さん、色々あると思います。この部会は、申し訳ありません、恵那南地区の統合中学校の準備委員会の総務部会ということで、どう準備をしていくかっていうことを、考える場だと思います。ですので、どういう準備をどういう風にしていくのかってことを、皆さんのお知恵をお借りしながら、これがこうこうしていけるといいねっていう方法を出していくのが、この場だと思いますので、そういうアイデアを出していただくような、お気持ちで来ていただくのが、前提になるかなと私は思うんですけど。

賛成か反対かっていうことではなくて、学校の統合に向けて、このような準備をしていくのが、大事というところで、知恵を出していただく会という風に私は思っていますし、そういう気持ちで自分自身は来ています。

そのようなことを承知していただいて、会議に臨んでいただかないと、その会議が開催されても、中身は進んでいかない状態になりますので。

部長：令和5年4月27日教育委員会告示第6号っていうので、恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会設置要項というのがありまして、一応、その内容を承認した上で、委員として活動していただきたいというのは基本的なところでございます。

委員：ひとついいでしょうか。ある保護者の方から言われたことを報告させていただきます。今回、この総務部会で決める校歌とか、校章とか、こういう内容は、1年あれば十分決めれる内容だっていう風に。で、しっかり映像、みんなが、そういう、目標、ビジョン、イメージが、新しい学校に対して沸けば、こんなのは時間かけなくてもすぐ決まるっていう風におっしゃってました。その方は、同じように学校統合を経験してきた方です。まず、この部会でやるべきことは、正確な情報を保護者の方に発信をして、っていうところが、大前提じゃないかなっていう風に。

この部会としての課題シート作ってくれてますけど、これもまあ、確かに大事なんですけども、1回、この部会は何を、新しい学校に向けていくのかっていうのを議論したらどうかなっていうご提案なんですけれど。

なので、スケジュールも1回、どうですかね。事務局の方に、任せちゃうっていうの、申し訳ないですよ。優先順位を決めたらどうかなっていう気がします。

部会長：中学校の名称とか校歌、校章ぐらいは別にそんな難しい問題ではない。

委員：そうです。その辺はもう後ろに下げてしまっは。

部会長：5番目。そもそも制服がいるのかいないのかとかいうところの議論からになると思いますので、ここはちょっと時間がかかる。

委員：時間がかかるところをもうちょっと精査してもらってっていうような。

部会長：3ページ目の次回の総務部会についてということで、学校名の選定に係るチラシ、ホームページ等の確認が、課題整理シート5の制服についてという風に、次回の会議で、諮る予定になっています。その統合するっていう前提の上で制服がどうするのみたいな話、これは、時間のかかることなので早めにスタートさせたいということでやっていきたいと思います。

委員：恵那北中の合併の時はどうやって決めましたか。

事務局：聞いておりますのは、北中学校の時に。例えば、校歌・校章・制服・体操服等に学校のあのマークが入ったりするところの手順を考えますと、まず第一に、学校名が決まり、その上で、校歌・校章が決まり、体操服や制服をどうするのかという議論が進んでおります。例えば、令和8年4月開校の設定で、全部の学年が同じ新しい体操服や制服でといったような意見が保護者の方から多い場合には、もう来年、中学校に上がっていく、今の小学校6年生のお子さんたちが、体操服、制服を新しいものを買うことになります。いつから、この制服の新しいものに切り替えていくのか、早速、来年から切り替えて、新しい制服や体操服で、それぞれの中学校で過ごしてもらって、統合した時に全部の学年が揃うようにした方がいいのか。どのようにするのか、保護者の方のご意見をしっかり伺った上で具体的な、デザインを決めていくような作業に入らなければいけません。

制服や体操服については導入の時期で、保護者の皆さんがどのようなお考えを持っているのか、そもそも制服が必要なのかどうかということも含めて、しっかり把握してからになります。準備にかなり時間のかかることですので、遅くに、取りかかるべきものではない。どこの学校統合の場合にも、準備まで時間をかけております。

委員：今、明智中学校は校章がありますか。

副部会長：校章は、明智中にはあんまり入ってないです。「AKECHI」とか書いてあるんですけど。

恵那北中の統合が平成9年だったと思います。平成8年度に1年だけがおったんですけども、その時に2年生担任したんですが、1年生と2年生はもう新しい学校の制服、制服はみんな一緒だったんで、体操服をもう準備していました。3年生と違う、あの体操服を着ている。ただ、ここには確かまだ校名は入ってなかった。これにするよっていうことだけ決まってです、その機能とか、色とかそういった部分を決められて、例えば男女一緒にするのかとか。私は3年生になると

一緒になるっていう子たちを教えました。3年生の時の学習の副教材は、2年生で買うんですけど、それをもう3校、飯地中と中野方中と、笠置中の、3校の中で打ち合わせをしながら、その時、相談したと言いますか、もう、決まっている状態でした。こういう会があったのかどうかは、ちょっと私も記憶にないですが、保護者の方が参加されてっていう印象は、私の中にはあんまりない感じがするんで、そういう風ではなかったかなとは思うんですけども。

今回と言いますか、恵那市においては、保護者の皆さんとか、他の方のご意見を広くお聞きするっていうようなことが、配慮されている状態では、あると思うんですけど。

校歌は、2月か、1月だったと思うんですけど、完成披露会を文化センターの中で中学生が全部集まって、作曲者、作詞者の方がおられて、こんな思いを込めてという説明があって、プロの方と子どもたち全員で歌うようなことをやりました。

その統合に向けてということで、行事等も宿泊研修なんかも一緒に行ったりとか、そういうこともやったりもしていました。

行事に関しては、この部会ではないですが、ここからステップを踏んでいくにあたって、本当に、来年度中学校に入学する、お子さんたちが、今の計画で言うと、3年生の時に統合する形になりますので、一緒になった時に、同じ制服っていうのが、3年生で1年間だけだからいいじゃないのって言う風にするのか、っていうところだと思うんですけど、2回、別のものを購入っていうわけにはいかないと思いますので。その辺りがどうしていったらいいかっていうところを、考えていかなきゃいけないのかなっていう風に思っていますけど。

部会長：体操服はいるとして、制服は思い切ってなしにしちゃうっていう手もあるとは思うんですけどね。だって、普段はジャージしか着てないでしょ。中学生。

フォーマルな場面だけですので、そうだったら、別にそれ、それなりの服装、それぞれでしてくればいいのかっていう考え方もあると。それはその課題のテーマの時に議論すればいい話で、今ここでする話じゃないんですけど。

ちょっと時間も時間ですので、中学校の名称問題は次回もあるかなとは思いますが。ただ、いずれにしても、決めてかないと、何も決まらないとは思いますが。ですから、あくまでもここは準備委員会であるということを十分ご理解いただいた上で、次回以降の、部会にご出席いただきたいと、重ねて申し上げたいと思います。

皆さん、せっかく集まっていたいて、いろいろな意見が聞けたのも、よかったと思いますが、協議の内容につきまして、今日はもうしないということで、校名をいつまでに決めて、制服問題をいつまでに片付けるのかというスケジュールングをもう一度、事務局の方で検討していただいて、誠に勝手ではございますが

今日の会議は閉じさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員：はい、

部会長：どうぞ。

委員：すいません、前回、1回目の総務部会の後に、とても、腹立たしいことがございましてこの場でご報告させていただきたいと思います。私は、今、市役所の山岡振興事務所の所長です。4月1日から異動になって、拝命いたしました。今回は、山岡小学校のPTA副会長という立場で出ております。小学校の副会長は、昨年度から継続でやっているということで、この準備会が始まる前から、小学校のPTAの副会長をやっていて、必然的に、ここに出てくる立場でありました。前回1回目の総務部会が終わった後、私の職場の職員係に私がこの部会でこういった発言をしたという趣旨のご報告、もしくは抗議、もしくはクレームなのかわかりませんが、そういったことが職員係になされました。私は今のところ、何の処分も受けておりません。当然、公務として出てきているわけじゃなくて、保護者として出てきているわけですから、当然、咎められるということはないと、私は思っています。どなたが言われたかっていうことは、総務課の方は、当然、私には言いませんが、理事会に参加された方なのか、もしくは、傍聴された方なのか、もしくは、この方が、あの人はこういう発言をしたっていうことを、又聞きされた方なのかかわかりませんが、部会で、こういった趣旨の発言をしたということ職場に言われるという思いをしました。これが、公務員だから仕方ない、と言われれば、そうなのかなっていう部分も若干はございますが、皆様方、なかなか発言しづらい立場だと思いますけど、発言したことによって、その方の職場にそういったことを言う方がいらっしまったという事実がありましたので、皆さんにご報告させていただきます。

部会長：ここで発言したことによって、何らかの不利益を被るようなことがあつては、良くないと思います。そういうのが心配な方は、発言を控えられてしまいますので、そういうことについては、ないようにしていただきたいと思います。

閉会にしても、よろしいでしょうか。どうもご苦勞様でした。お忙しい中、集まっていたいただいて、協議としては、進行しなかった部分もありますが、貴重なご意見も多くいただいておりますので、この部会と、また別の場所で、別の形で、議論は、してもいいかと思いますが、この部会については、あくまでも、そういう部会だということで、今後ともよろしく願いいたします。

#### (4) 新中学校の名称の選定方法について（課題整理シート1）

事務局が協議項目のスケジュールリングを再検討し、次回に提示することで、今回の協議は延期になりました。

### 3. 次回の総務部会について

事務局：事務局の方で、どの議論から進めさせていただくのが良いかという、スケジュールを今一度、組み直さしていただいて、次回にご提案させていただくということによろしいでしょうか。

部会長：部会は基本的に月1ぐらいのペースで考えていますか。

事務局：もう少し時間をかけて検討しなければいけないというようなことであれば、開催時期についても必ず月1回というようなものではございません。場合によっては、すぐにでもというようなことであれば、すぐに開催します。

委員：Zoom配信をしてほしいんですけど。旦那さんが残業で子供1人置いて出てこなきゃいけないので、低学年の子供を。Zoom配信はいつからされるんですか。

事務局：そういったことにつきましても、ここの場で決まるものではございませんので、教育委員会の方に持ち帰りまして、例えば、理事会に諮ってそういったところで決まっていくということでありましたら、決まったことを、お知らせさせていただくということになりますので、よろしく願いいたします。

副部長：こちらになかなか来られないけども、Zoomでの参加ならばっていう風な方がいらっしゃるわけですね。善処というか、そちらの方向を実現できるような形で。

部会長：基本的には理事会で決める話で、理事会に回る話だと思います。ただ、不特定多数に配信するわけにはいかないの、その辺の対応をどうするかっていう問題は残るかと思いますが、一応、顔さらして、みんなが喋っているのを配信されたくないっていう方もいらっしゃるかと思いますが。前回の理事会は、配信されたみたいですけど、私は別に顔と名前がさらされても、今更どうってことないんですけども、一応、この部会では参加者に圧迫を与えるようなシステムでやるっていうのは難しいと思います。ただ、会議の構成員の方がご自宅で参加されたいということについては、うまくやればできるんじゃないかなと個人的には思いますども、それも理事会で検討する話とはなると思います。

委員：今の話って、傍聴も含めてじゃないですか

部会長：傍聴は傍聴ですよ。

委員：傍聴できないのでライブ配信できないのっていう話もあったんですけど、違いますか。

部会長：YouTubeとかでさらされるのはちょっと勘弁してください。

委員：傍聴したいけど、子育てとかしてて、見にいけない保護者にZoom配信をしてほしいことも含めて、理事会で確認してください。

部会長：ここで、できるできないを判断する場所じゃないので。

委員：理事会にちゃんとそれをあげてもらいたいっていうお願い。この部会の会とし

てちゃんとあげてほしいです。

部会長：以上で閉会いたします。